

2018年度自己評価結果表

A : 十分達成されている (4)

B : 達成されている (3)

C : 取り組まれているが成果が十分ではない (2)

D : 取り組みが不十分である (1)

(8割 = 3.2)

I 保育の計画性

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 園の教育理念・教育目標の理解 | 3.7 |
| 2. 幼稚園教育要領の理解 | 3.7 |
| 3. 教育課程の編成 | 4.0 |
| 4. 指導計画の作成 | 3.9 |
| 5. 環境の構成 | 3.6 |
| 6. 評価・反省 | 3.5 |

II 保育の在り方、幼児への対応

- | | |
|----------------|-----|
| 1. 健康と安全への配慮 | 3.8 |
| 2. 幼児理解 | 3.8 |
| 3. 指導とかかわり | 3.8 |
| 4. 保育者同士の協力・連携 | 3.9 |

III 保育者としての資質と能力

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 専門家としての能力・姿勢・義務 | 3.8 |
| 2. 組織の一員としての在り方 | 3.9 |
| 3. 保育の楽しみ・喜び | 4.0 |

IV 保護者への対応

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. 情報の発信と受信 | 3.8 |
| 2. 守秘義務の遵守 | 4.0 |
| 3. 対応上のマナー・心がまえ | 3.9 |
| 4. クレームへの対処の仕方 | 3.9 |

V 地域の自然や社会とのかかわり

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 地域の自然・人々とのかかわり | 3.6 |
| 2. 小学校との連携 | 3.7 |
| 3. 子育て支援と地域への開放 | 3.8 |

VI 研修と研究

- | | |
|------------------------|-----|
| 1. 研修・研究への意欲・態度 | 3.9 |
| 2. 保育者としての専門性に関する研修・研究 | 3.8 |
| 3. 今日的課題に関する研修・研究 | 3.7 |

以上自己評価の総評は、3.8である。

これは、9割以上の達成と言える。

項目別に見ていくと、以下のものが平均（3.8）以上の達成となった。

○教育課程の編成	4.0
○保育の楽しみ・喜び	4.0
○守秘義務の遵守	4.0
○指導計画の作成	3.9
○保育者同士の協力・連携	3.9
○組織の一員としての在り方	3.9
○対応上のマナー・心がまえ	3.9
○クレームへの対処の仕方	3.9
○研修・研究への意欲・態度	3.9
○健康と安全への配慮	3.8
○幼児理解	3.8
○指導とかかわり	3.8
○専門家としての能力・姿勢・義務	3.8
○情報の発信と受信	3.8
○子育て支援と地域への開放	3.8
○保育者としての専門性に関する研修・研究	3.8

今年度、3.9以上という高い評価となった項目は、下記の9項目である。

- 教育課程の編成
- 保育の楽しみ・喜び
- 守秘義務の遵守
- 指導計画の作成
- 保育者同士の協力・連携
- 組織の一員としての在り方
- 対応上のマナー・心がまえ
- クレームへの対処の仕方
- 研修・研究への意欲・態度

「教育課程の編成」「指導計画の作成」～今年度、幼稚園教育要領が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、「生きる力の基礎を育むために」幼児の資質・能力が3つ、さらに10項目の「姿」が挿入された。その内容について、年度初めに研修の時を持ち、更に、キリスト教保育の立場でどう捉えていくかを話し合い、保育に生かすよう努めた。また、年間の目標をもとに月案・週案・日案を教師間で話し合い丁寧に計画を立てている。そして、日々、週、月、学期ごとの反省、振り返りをもとに子ども達の現状を踏まえた柔軟なカリキュラムの作成に心がけた。

「保育の楽しみ・喜び」～昨年同様高い評価となった。教師にとって保育をするということは仕事ではあるがそこに楽しみ・喜びを感じる事が出来ることは、とても幸せな事である。子ども達の成長を自分の喜びと感じ、日々の保育を本当に楽しんでいる教師のまわりには、瞳を輝かせた子ども達が集まる事を実感している。日々心身豊かに成長する子ども達、そして自分自身も子ども達とともに成長できる保育者という仕事は素晴らしい職業だと感じている。

「守秘義務の遵守」～各家庭の個人情報の保護、管理を徹底しているのはもちろんのこと、個々の子どもの理解の為に必要なこととして得られた家庭や個人のプライバシーにかかわる内容について口外しないという守秘義務の遵守も徹底している。

「保育者同士の協力・連携」「組織の一員としての在り方」～幼稚園生活の中での活動は、個人、グループ、クラス、学年、園全体等多様な形態で展開される。そのような中で、子どもひとりひとりが安心して自分を発揮して充実感を味わう為にはクラスの枠を超えた柔軟な対応が望まれる。全園児を全教師で保育をしているという自覚を持って、教師間のコミュニケーションを十分にとり、共通理解、スムーズな連携に努めている。また、幼稚園がその保育の力を十分に発揮し、保護者や地域と良好な関係を構築して行くためには、保育者ひとりひとりの資質・能力の向上に力を注ぎ、互いの協力性・協働性を高め、組織が活性化して、有効に力を発揮できるよう、今後も模索していく。

「対応上のマナー・心がまえ」「クレームの対処の仕方」～幼稚園の教育方針に共鳴して、幼稚園を選んでくださっている保護者の方々にとって幼稚園や教師に対する期待から、時には意見や要望となる事もある。このことを真摯に受け止め、適切に且つ速やかに対処していくよう心がけている。園長・副園長・主幹・主任に報告、連絡、相談したり、教師会で検討したりして、共通理解の上で対応することを大切にしている。

「研修・研究への意欲・態度」～釧路私立幼稚園連合会北私幼釧根支部の夏・冬の研修会、北海道私立幼稚園教育研究大会道東ブロック大会、キリスト教保育連盟道東地区研修会など毎年行われる研修会への参加はもちろんのこと、その他に行われる特別支援教育など様々な研修会に積極的に参加している。今年度、15の研修会に参加した事は評価できる。

新子ども・子育て支援制度、幼稚園教育要領の改訂など、幼児教育が様々に変化していく中、その重要性が改めて注目されている。2019年10月1日からは無償化となり、全ての子どもたちに“質の高い保育を”と「保育の質」の向上、言い換えればその業を担う教師の「資質」の向上が求められている。今年度、全体として高評価となったが、この評価に甘んじることなく、今後も時代の流れを敏感に感じながら、大切なものを見失うことなく、自己研鑽を怠らず、より質の高い保育を実践していきたい。